

教員養成における音楽的基礎教育に関する研究

柴田学園大学 こども発達学科

一戸 智之

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

顔写真等
(希望者のみ)

t-ichinohe@shibata.ac.jp

Web

キーワード

音楽科教育、ピアノ（演奏法、伴奏法、指導法）、アンサンブル、弾き歌い
歌唱共通教材、令和の日本型学校教育、人間教育、芸術教育、協調学習

【研究目的、概要】

人間と音楽と教育をどのように捉え、人間教育・音楽教育・芸術教育をどのように結び付けるかを大きな研究テーマとしています。具体的には、ピアノ演奏法と指導法、ベートーヴェンの楽曲、音楽科の授業実践、音楽的基礎教育等々について研究を行ってきました。現在は、協調学習を促すピアノ基礎技能習得テキストに関する研究を進めています。

18世紀初頭に発明されたピアノは、汎用性と利便性の高さから演奏目的だけではなく多くの教育現場で活用されてきました。そうした背景から音楽教育においてピアノ技能は非常に重要視されています。その一方で、教員養成課程では芸術系大学とは異なり、技能の習得とともに教育者の養成も必要です。この目的を達成するための有効な学習形態として協調学習があります。協調学習を取り入れたピアノ実技指導では、複数の学習者が他者との交流によって単に音楽的知識や技能を深めるに留まらず、互いに学習を助け合いながら考えを比較・吟味することで主体的・創造的な学習活動に繋げ、一人一人が学習に対する責任を果たすことでグループや個々の課題を乗り越え、より良い結論を導き出せるようにすることが大切です。

個人の学びとして捉えられてきたピアノ実技指導の規範を、学習者同士の関わりを主眼にした協調学習に転換させることによって次のような教育的効用が期待できます。

- ・他者からの刺激による学習の動機付け（モチベーションの向上）
 - ・アンサンブルを通じた自学習への意欲の高まり
 - ・ディスカッションの外化（人に教えることによって自分の理解を深める）
 - ・理解の仕方の多様性への気づき
- 等々が挙げられます。

【期待される波及効果】

令和の日本型学校教育に求められる資質・能力の育成を、音楽科教育におけるピアノ実技の授業実践を通して推進していきます。ピアノ技能の向上とともに、多様な社会の要請に応えるために新たな指導モデルの提供とその汎用化を促進することで、以下のような人材の育成が期待されます。

- ・協働体制で課題解決に向けた取組みができる人材
- ・グループ間で課題解決の糸口を見出す人材
- ・課題解決に対する継続的な取組みができる人材